

161st IBB Seminar

π 結合の活性化を基盤とする 連続反応の開発と応用

講師： **大野浩章教授**

京都大学大学院 薬学研究科
ケモゲノミクス・薬品有機製造学分野

日時：平成 27 年 1 月 26 日（月）
14:00～15:00

会場：東京医科歯科大学 生体材料工学研究所
第二会議室 22 号館（1 階）



Abstract: 生物活性化合物には複雑な環骨格を有するものが数多く存在します。このような環骨格の構築には通常多段階を要するため、構造最適化を含む創薬展開の実施には困難を伴います。我々は π 結合の連続活性化に着目し、生物活性化合物に含まれる複雑な複素環骨格を短工程で構築する方法論の開発研究を実施しています。本講義では、アルキンの活性化を利用した触媒的ドミノ型反応の開発、生物活性化合物の合成と創薬展開、およびアルカロイド全合成への応用に関する最近の研究成果について紹介させていただきます。

お問い合わせ：生体材料工学研究所
ゲノミクス・薬品有機製造学分野
田辺（内線 8038）、玉村